

## ◆ 平成 28 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：氷川ほたるの杜

19A-21

代表者：東角井 真臣

URL :

### 1. 活動が必要とされた状況

見沼の源流であり、市民の憩いの場でもある氷川神社の神池も、長年の落ち葉が沼底に溜まりヘドロ化しており、夏には異臭を放っています。また、心無い人々により外来生物が放流され、氷川神社に棲む希少生物を含めた生態系に大きく影響を及ぼしていました。



### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）



神池に注ぐ蛇の池からの水流を堰き止めポンプにて還流させるとともに、神池本体の水もポンプにて9月初めより汲み出しました。9月17日にボランティアを含め80名を2班に分け、沈殿した塵芥の撤去班と氷川神社固有種の保護及び、外来種の駆除の班に分けて作業開始。自転車等の不法投棄は少なかったが、倒木や枝だけでも軽トラック3台分はありました。50年間に溜まった落ち葉はヘドロ化して70cm程堆積しており、作業は困難

を極めました。みなさんの協力により、外来生物は処分し、鯉や鮒は他の池や仮設水槽に移動させることができました。

### 3. 活動の成果

外来生物（ミシシッピーアカミミガメ、ライギョ、ブラックバス、アメリカザリガニ）の駆除と希少生物（氷川神社固有のヌカエビの生息を確認）の保護は一定以上の成果を挙げることができました。水質においても異臭が無くなり、透明度が増えています。何よりも参加者だけではなく、多くの方が我々の活動に興味を持ち、「参加したい」「協力します」という声が増えたことが最大の成果だと言えます。



写真 ©アコレおおみや

### 4. 今後に残された課題

氷川の社は、現在もカワセミとツミの営巣が確認されています。また、昭和40年代までは日本有数のほたるの産地でした。今後も、環境の保全と動植物の保護を行い、自然と共生されたまちづくりを求めてまいります。そのためには、より一層の協力者と多くの理解者を増やしていかなければならないと考えています。